４　「神奈川モデル」の取組状況

神奈川モデルの取組状況

かながわスマートエネルギー構想の推進

これまでの主な取組み

・　県と太陽光パネルメーカー等が協力し、太陽光発電をリーズナブルな価格で安心して設置していただくため、全国初の取組みとして、「かながわソーラーバンクシステム」を運用しています。この取組みにより、補助金なしでも売電収入等で設置費用の回収を見込める設置プランが登場しました。
・　太陽光発電の普及を加速化させるため、全国に先駆けて、県有施設の「屋根貸し」による太陽光発電事業に参加する事業者を公募（2012年６月、10月）し、順次、発電事業を開始しています。この「屋根貸し」モデルは既に60以上の自治体に波及しています（「かながわソーラーバンクシステム」や「屋根貸し」などの取組みが評価され、「ソーラーアワード2012」自治体部門を受賞）。
・　県が率先して省エネの取組みを進めるため、リース経費を電気料金等の削減額で賄う方式を官公庁の庁舎として全国で初めて取り入れ、県有施設170施設に約７万灯のＬＥＤ照明を導入（2012年７月～2013年１月）しました。
・　電気自動車（ＥＶ）の普及は、導入に対する補助、充電インフラの整備促進などにより、目標（2014年度までに県内3,000台）を2012年６月（3,325台）に達成し、12月には4,031台（全国トップの普及台数）に伸びました。

2013年度以降の取組み

・　スマートコミュニティの形成に向けて、まず、住宅や事業所のスマート化を促進するために、ＨＥＭＳやＢＥＭＳ等の導入に対する補助制度を創設したので、この補助制度を積極的に活用していただくよう市町村や事業者と連携して周知に努めます。
・　2015年の燃料電池自動車（ＦＣＶ）の一般販売開始に向けて、キックオフイベントの開催など、水素エネルギーの普及を図るための取組みを2013年度から始めています。

神奈川モデルの取組状況

ビッグレスキューかながわ

これまでの主な取組み

・　大規模災害時の医療支援体制を強化するため、自衛隊医療関係機関とＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）などが参加した「ビッグレスキューかながわ（県・横須賀市合同総合防災訓練）」を実施しました。（2012年９月）
・　訓練には自衛隊、ＤＭＡＴ、警察、消防、海上保安庁、日本赤十字社、在日米軍、自主防災組織など、約3,000人が参加しました。
・　陸上自衛隊武山駐屯地（横須賀市）を中央会場として、多様な医療機関が連携した医療救護訓練、ヘリ、船舶などによる負傷者搬送、海上自衛隊艦艇内における医療救護訓練などを実施しました。

2013年度以降の取組み

・　県内全域の大規模災害時の医療支援体制を強化するため、自衛隊、ＤＭＡＴ、災害拠点病院、自主防災組織などが参加し、ビッグレスキューかながわ（県・平塚市合同総合防災訓練）を実施します。（2013年９月予定）
・　湘南海岸公園（平塚市）を中央会場として、多様な医療機関が連携した医療救護訓練、ＳＣＵ（航空搬送拠点臨時医療施設）から県外への広域医療搬送、海上保安庁巡視船内における医療救護訓練のほか、警察、消防等が参加する救出救助訓練などを実施します。

神奈川モデルの取組状況

医療のグランドデザイン

これまでの主な取組み

・　「いのち輝くマグネット神奈川」を具体化するための、本県の医療施策推進の根本理念として、都道府県初の医療全般にわたるグランドデザインを2012年５月に策定しました。
・　身体合併症患者の受入は、体制整備のため、県西部の２か所の医療機関において施設整備や精神科医の配置、専門医の養成、医療機関等へ電話で助言する緊急相談窓口の設置を行いました。
・　高い実践能力を持ち、自律的に活動できる看護職員の養成を図るため、県立看護専門学校をはじめとして、准看護師養成から看護師養成への移行について方向性を示しました。

2013年度以降の取組み

・　向こう５年以内の取組みについては、2013年３月に策定した保健医療計画（計画期間：2013年度から2017年度）において、具体化していきます。
・　神奈川マイカルテは、2013年５月からお薬手帳の電子化の実証実験を行なっています。並行して、事業の持続可能性を確保するために、民間企業による事業運営について検討していきます。
・　身体合併症患者の受入体制の整備は、救急患者を円滑に受け入れるために、広域的なしくみづくりに取り組むとともに、身近な地域で既存の医療資源との連携により患者への対応が可能となるようにしていきます。

神奈川モデルの取組状況

医食農同源の推進

これまでの主な取組み

・　今後の神奈川県における医食農同源の推進について県民の方に広く知っていただくため、「医食農同源かながわシンポジウム」（2012年7月　来場者650人）を開催しました。
・　神奈川県における医食農同源のあり方と高機能性食品の研究の方向性や漢方理解促進のあり方について検討するため、医食農同源研究会（１回）と同部会（4回）を開催しました。
・　保健福祉大学等で県内産農産物の中で生活習慣病予防に役立つ食材の機能性の研究を進めるとともに、大学や料理研究家によるレシピ開発を行いました。
・　県民の方に「医食農同源の取組み」を身近に感じてもらうため、「食がカラダを変えるin花菜ガーデン」と題し、健康講座（2回）や料理教室（８回）を開催しました。

2013年度以降の取組み

・　食を中心とした病気にならないための取組みを支援するため、引きつづき、医・食・農の各分野の専門家等による研究会・部会の開催や、生活習慣病に役立つ食材の機能性の研究を進めるとともに、健康レシピの開発を行います。
・　地産地消による医食農同源についての理解促進を図るため、県内の大型直売センターにおいて、各地域の食材を活用したレシピによる試食・ＰＲを行います。
・　医食農同源の健康観や医食農同源につながる県産農水産物の魅力と利用法についてＰＲを行うため、農業体験参加者を対象にセミナー（1回）を開催します。
・　病気にならない「未病を治す取組み」の実現のため、自分の体調、体質などから健康状態（未病）を判断する方法の研究を行います。なお、2013年5月、米国において、関係機関等との意見交換や本県の取組みのＰＲを行いました。

神奈川モデルの取組状況

「いのちの授業」

これまでの主な取組み

- あらゆる教育活動の中で様々な「いのちの授業」を実践するため、各学校でのいのちの授業の取組みを紹介するHP「いのちの授業見つけた」を開設（2012年5月）し、実践事例や子どもたちのメッセージを掲載しました。
- 中学生・高校生を対象とした「いのちの大切さを学ぶ教室」は、前年度を大きく上回る73回開催しました。
- 「いのちの大切さを学ぶ教室」を受講した生徒を対象に、作文コンクールを実施し、応募総数578作品の中から、知事賞をはじめ合計13人の生徒を表彰し、次世代を担う中学生・高校生の規範意識の向上に寄与しました。
- 「いのちの大切さを学ぶ教室」を効果的に実施するため、犯罪被害者の手記をもとにしたアニメーションDVDを、安全防災局、県民局、保健福祉局、教育委員会、警察本部により、作成しました。
- 手記の執筆者による講演会を開催し、約220人の参加者へ、被害者等への理解促進と被害者支援の重要性を周知することができました。

2013年度以降の取組み

- かながわを担う心豊かな人づくりを進めるため、各学校での「いのちの授業」の取組みを積極的に推進するとともに、「いのちの授業」の実践事例をHPを通じて発信し、各学校への浸透を図ります。
- アニメーションを活用した、より理解しやすい「いのちの大切さを学ぶ教室」を推進します。

神奈川モデルの取組状況

にぎわい拠点づくり

これまでの主な取組み

- 新たな観光の核づくりの構想を具体化するため、2012年11月に１件（城ヶ島・三崎漁港周辺地域）、2013年２月に２件（大山地域、大磯地域）を認定しました。
- 第１回認定の城ヶ島・三崎漁港周辺地域の魅力のＰＲのため、城ヶ島・三崎わくわくフェスタ等を実施しました。
- 地域活性化に向けた拠点づくりとして、江の島島内の渋滞対策手法の検討など、利便性の向上に向けた取組みを進めました。

2013年度以降の取組み

- 地域自らがにぎわい創出に取り組む観光の核づくりを進めるため、新たな観光の核の拠点として認定した３地域について、地域主体で推進組織を立ち上げ、事業計画の策定を進めます。また、県はイベントの開催など、構想のＰＲに努めます。

神奈川モデルの取組状況

「水のさと かながわ」づくり

これまでの主な取組み

・　水と自然に恵まれた神奈川において、水に徹底的にこだわることで浮かび上がる水の魅力を発信する取組みを進めるため、キックオフ･シンポジウムを開催（2012年７月　参加者367人）し、この中で、森・川・海のつながりの重要性が指摘されました。
・　観光資源としての水の魅力に着目し、「かながわの水の名産展」（８月、10月）や「水の観光ツアー」（４回）の実施、観光サイト「みずたび」などによる情報発信など、「水の観光」キャンペーンを実施しました。
・　このほかにも水の魅力を幅広く捉え、県のイベントや広報媒体での情報発信に加え、「連携と協力に関する包括協定」を締結する百貨店や情報誌などとの連携により「水のさと　かながわ」をアピールしました。

2013年度以降の取組み

・　NPO、団体、市町村、包括協定を締結する民間企業などとも連携しながら、森・川・海と広がる神奈川の水の魅力を新たに発掘し、さまざまなイベントや広報媒体で発信します。
・　多くの人に神奈川の水の魅力にふれてもらうため、フォトラリー（2013年7～9月予定）や「水の観光」ツアーなどにより、「水のさと　かながわ」を広くアピールします。
・　こうした取組みにより、「水のさと　かながわ」のイメージをより一層浸透させるとともに、県外へもアピールして、神奈川への誘客を促進します。

神奈川モデルの取組状況

かながわ国際ファンクラブ

これまでの主な取組み

・　留学生を支援し、神奈川のファンを増やしていくため、「かながわ国際ファンクラブ」を結成し、ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」を開設しました（2012年５月）。
・　県内での就職を希望する留学生を支援するため、就職支援セミナー（25回）や企業見学会（２回）、会社説明会（１回）を実施しました。
・　留学生による学校での国際理解講座（８回）を実施しました。
・　神奈川でくらし、学ぶ留学生の支援拠点として、かながわ県民センター２階に「かながわ国際ファンクラブ　KANAFAN STATION」をプレオープンしました（2012年12月）

2013年度以降の取組み

・　外国人留学生への支援を総合的に展開していくため、「かながわ国際ファンクラブ　KANAFAN STATION」を本格オープン（2013年４月）します。
・　留学生のニーズに応じた支援を行うため、引き続き、就職支援や交流支援事業を実施し、充実を図ります。
・　神奈川の若者たちと外国人留学生との交流を進め、コミュニケーション能力の向上を図るなど、グローバル人材を育成するための取組みを進めます。

神奈川モデルの取組状況

京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の推進

これまでの主な取組み

・　国際戦略拠点形成に向け、殿町区域に「川崎生命科学・環境研究センター」が開設し、神奈川科学技術アカデミー（ＫＡＳＴ）が研究拠点の一部を設置するとともに「国立医薬品食品衛生研究所」の移転も決定し、拠点の整備が進みました。
・　特区における国際戦略を強化するため、企業等の海外展開のサポートなどを行う民間主導によるグローバル・コラボレーション・センター（GCC）構想を推進しました。
・　特区で行われる事業や成果を国内外へ発信するため、国内最大級のバイオ産業展示会「バイオジャパン」に出展するとともに、セミナーを開催しました。

2013年度以降の取組み

・　ＫＡＳＴがこれまでの研究プロジェクトで蓄積した技術を生かした研究を行い、安全性・有効性の評価法確立や革新的な製品開発に結びつけ、ライフサイエンス産業の創造・振興という特区の目標実現を加速させます。
・　2013年４月のライフイノベーション国際協働センター（GCC）開設を契機に戦略的な施策展開に向けた取組みを進めます。
・　県・横浜市・川崎市が連携し、個別プロジェクトの展開の強化、ライフイノベーション地域協議会の開催、バイオジャパンへの出展などに取り組みます。
・　県として国際戦略総合特区制度を活用し、国際的な医療人材が育成され、交流することができるよう、国際的な医学部の新設や既存の大学による共同設置、国際的な大学院の設置などについて、検討を進めます。
・　2013年５月に知事が米国を訪問し、バイオ関連の業界団体やマサチューセッツ州政府関係者との意見交換、ハーバード大学やヘリテージ財団における講演などを通じて、特区の取組みをアピールし、今後の米国展開に向けた様々な機関とのネットワークの構築を図りました。
・　生活支援ロボットの実用化を目指す「さがみロボット産業特区」（2013年２月に地域活性化総合特区に指定）と連携し、相乗効果をあげるよう検討を進めます。